



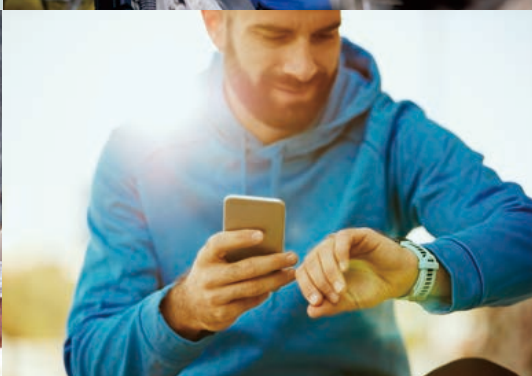
# 未来につながる 素材を届ける



創業96年を迎える信越化学は、時代の要請に応じて質の高い素材製品を提供し続けることで、社会の発展に貢献してきました。社会課題が多様化する今、産業の川上に位置する当社グループにしか果たすことができない使命があると考えています。

2021年に上市したウェアラブルデバイス向け新材料は、シリコンの特性を生かし、装着者の不快感を払拭するとともに心電図信号を安定的に取得。在宅医療の需要の高まりと向き合うことで、長寿社会の実現に貢献しています。

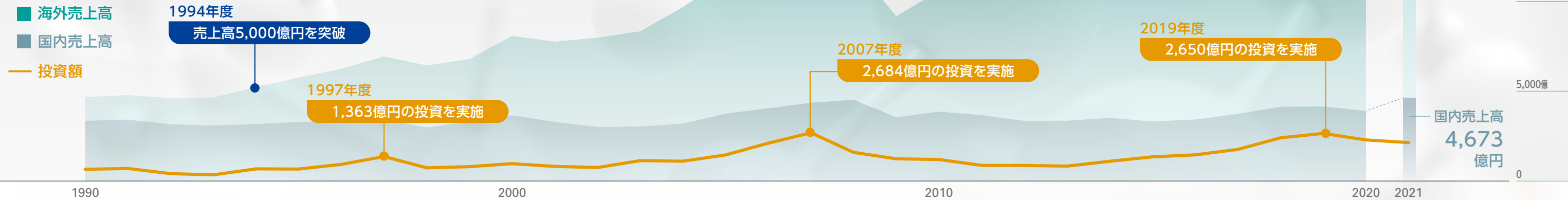
未来につながる素材を届ける。これからも付加価値の高い製品を世界に届けることで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。





# 時代や社会の要請に応え、 継続的に新たな価値を創造

当社グループは、1926年に信越窒素肥料(株)として発足して以来、絶えず未来を見据えて事業変革を進め、現在では、塩ビ、半導体シリコンをはじめ、多くの素材・製品で世界トップシェアを有しています。当社グループは、これからも時代や社会の要請に応え、産業や生活の基礎になる素材・製品で世界のリーディングカンパニーを目指し、新たな価値を創造し続けます。



## 1950~60年代

### 事業基盤の形成



生産開始当初のシリコン製品

- 塩ビの生産開始
- シリコンウエハーの生産開始
- シリコンの生産開始
- セルロースの生産開始

- 国内の社会インフラの整備、建設需要の高まり
- 高度経済成長に伴う家電製品の普及

## 1970~80年代

### 既存事業の強化と国際展開



操業を開始したシンテックの塩ビプラント

- 米国テキサス州で塩ビの生産開始
- 半導体シリコン事業の海外展開
- シリコン事業の海外展開
- レア・アースマグネットの生産開始
- 光ファイバー用プリフォームの生産開始

- 世界的な社会インフラ・経済の発展
- 半導体素子の集積回路化、パソコンの普及
- 情報社会に向けた通信網の普及

## 1990~2000年代

### 新たな挑戦/企業体質の改革、 国際競争力の強化



300mmウエハー棟(信越半導体白河工場)

- 欧州で塩ビ事業、セルロース事業を買収
- 米国ルイジアナ州で2工場建設
- 300mmシリコンウエハーの量産開始
- タイでシリコンモノマーとポリマーの生産開始
- フォトレジスト、フォトマスクブランクス事業化

- 欧州・中東・アフリカでのインフラ需要の伸長
- 携帯電話の普及
- インターネットの普及
- 地球規模で環境負荷削減への意識が拡大

## 2010~20年代

### 新たな成長戦略の展開



シンテックのルイジアナ州の新工場

- 米国でエチレンの生産開始(塩ビの原料からの一貫生産体制の構築による安定的かつ柔軟な製品供給)
- ベトナムでレア・アースマグネットの一貫生産開始
- 低誘電樹脂(5G関連製品)の量産開始

- 米国の住宅需要の拡大
- 世界的なEV(電気自動車)へのシフト
- 次世代高速通信技術(AI・IoT・5G)の発展

信越化学  
グループの  
施策

社会の課題  
やニーズ



# 経済情勢、事業環境の変化に迅速に対応し、他が追随できない強みを構築

営業、開発、製造の三位一体のモノづくりにより、確固たる地位を築いています。

強み

## 1 トップシェア

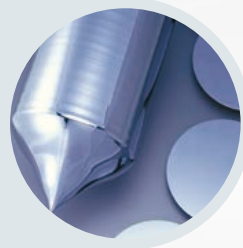
塩ビや半導体シリコンをはじめ、社会を支える重要な素材で高い市場シェアを確保しています。

塩化ビニル樹脂  
(塩ビ)



世界 1 位

半導体シリコン  
(シリコンウエハー)



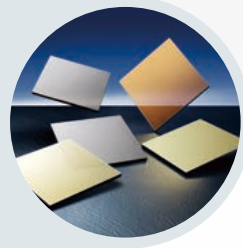
世界 1 位

合成石英  
(液晶用フォトマスク基板)



世界 1 位

フォトマスクブランクス



世界 2 位

合成性フェロモン



世界 1 位

フォトレジスト



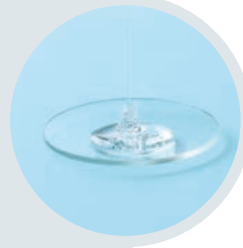
世界 2 位

メチルセルロース



世界 2 位

シリコーン



国内 1 位  
世界 4 位

(信越化学調べ)

強み

## 2 稼ぐ力

競争力のある製品群と生産性向上に向けたたゆまぬ努力により、高い収益性を実現しています。

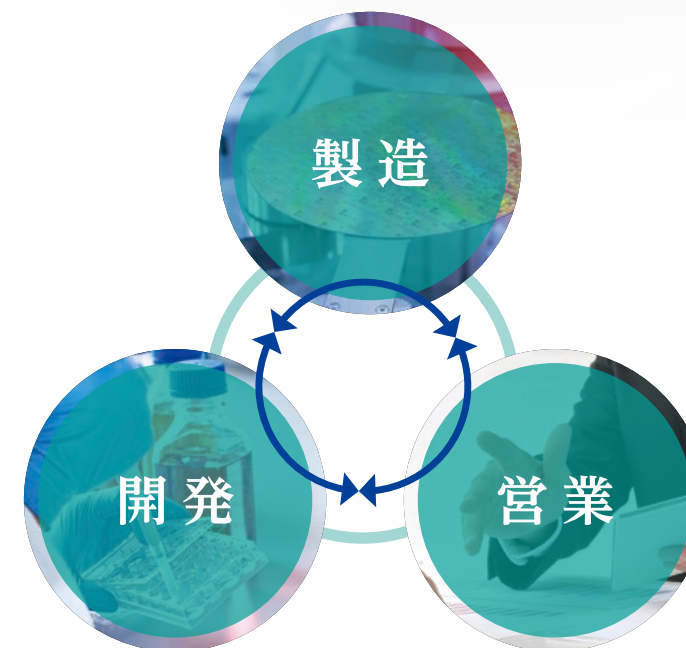
(2022年3月期)

	売上高営業利益率	ROIC	ROE
信越化学(連結)	32.6%	27.2%	16.3%

強み

## 3 三位一体のモノづくり

信越化学の製品づくりは、お客さまに密着した形で進められます。これを支えているのが、営業、開発、製造の「三位一体」となった体制です。



営業活動を通して得られた市場ニーズは研究部門に伝えられ、研究テーマが設定されます。開発部門は、テーマに沿って製品の開発を進めると同時に、製造部門との緊密な連携のもと、工場設備を利用して品質の安定化および量産化へ向けての実践的な開発と試作を行います。これを効率的に行うために、信越化学の研究開発拠点は全て工場と同一敷地内にあります。

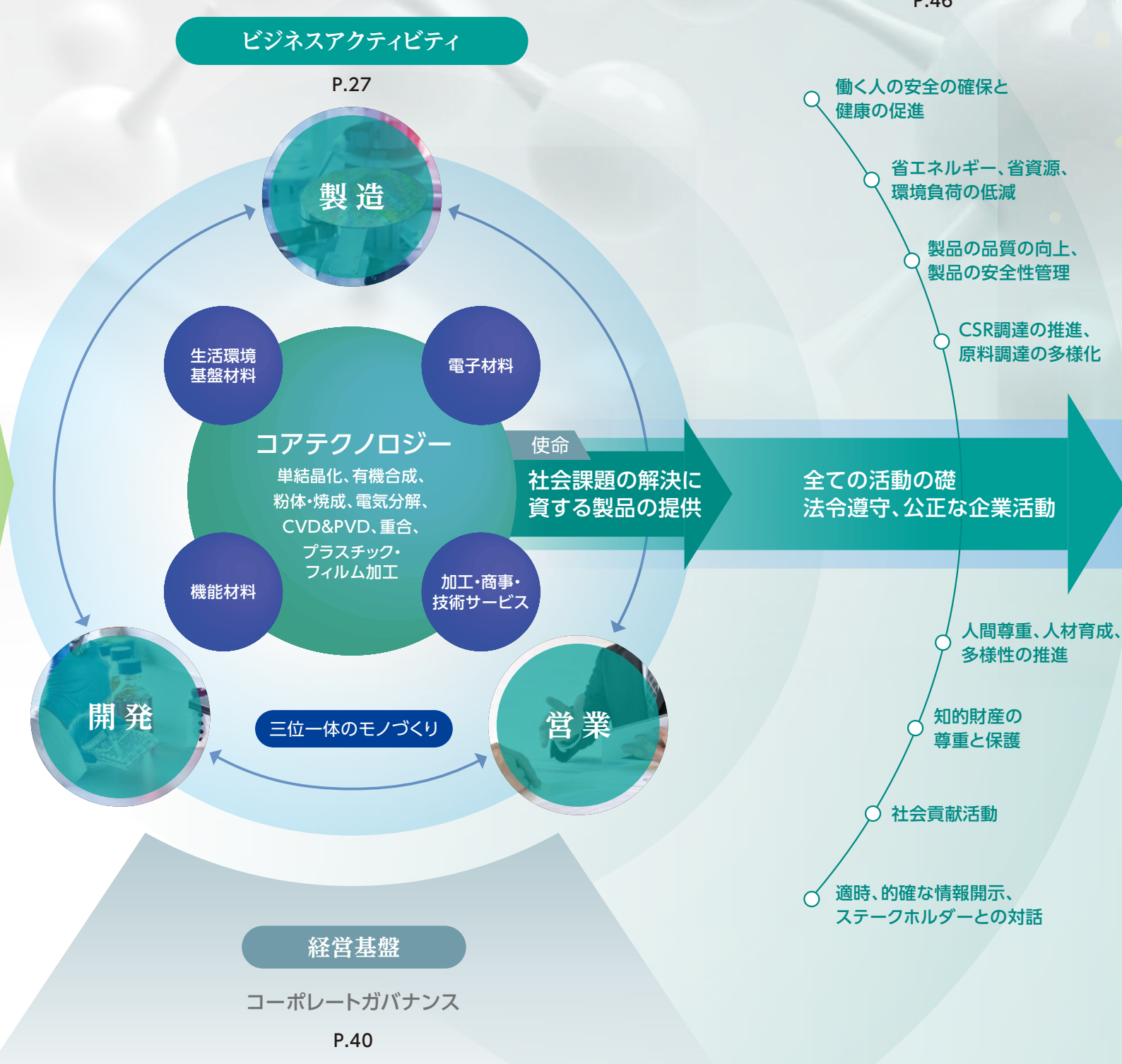


# 信越化学グループならではの 価値創造プロセス

当社グループは「営業、開発、製造の三位一体のモノづくり」を強みとして、産業や生活に不可欠な素材で他の追随できない価値を生み出し、社会課題の解決に貢献しています。

**競争優位の源泉**  
P.14

- 財務資本
- 製造資本
- 人的資本
- 知的資本
- 社会・関係資本
- 自然資本



**ビジネスアクティビティ**  
P.27

**サステナビリティ**  
P.46

- 働く人の安全の確保と健康の促進
- 省エネルギー、省資源、環境負荷の低減
- 製品の品質の向上、製品の安全性管理
- CSR調達の推進、原料調達の多様化
- 人間尊重、人材育成、多様性の推進
- 知的財産の尊重と保護
- 社会貢献活動
- 適時、的確な情報開示、ステークホルダーとの対話

**経営基盤**  
コーポレートガバナンス  
P.40

**創出価値**  
2022年3月31日現在

営業利益	6,763億円
当期純利益	5,001億円
ROIC	27.2%
ROE	16.3%
1株当たり配当金	400円
過去5年間のTSR	207% (TOPIX144%)
時価総額	2012年3月末 20,655億円 ↓ 2022年3月末 78,291億円
格付けムーディーズ(長期)	Aa3
売上高に占める環境製品比率 <sup>*1</sup>	約7割
温室効果ガス排出量原単位(1990年度比)	47.1%削減
海外売上高比率	77.5%
無形資産価値比率 <sup>*2</sup>	56.2%

<sup>\*1</sup> 2021年に日本政府が提示した「カーボンニュートラルの実現に不可欠な14分野」に貢献する製品。  
<sup>\*2</sup> 資本市場での無形資産価値の評価を示す指標。無形資産価値比率=(無形固定資産(簿価)+時価総額-純資産(簿価))/時価総額

**目指す姿**

**地球の未来への貢献**

**接続性**

AI, IoT, 5G, メタバース  
半導体シリコン、シリコン、光ファイバー用プリフォーム、低誘電樹脂など

**スマートインフラ**

インフラ整備  
塩化ビニル樹脂、セルロース誘導体、シリコン

**生産性の向上**

ロボット、産業用モータ  
半導体シリコン、レア・アースマグネット、シリコンなど

**健康増進**

医薬材料、医療器具機器材料  
セルロース誘導体、ポパール、シリコン、レア・アースマグネット

**食品、衛生**

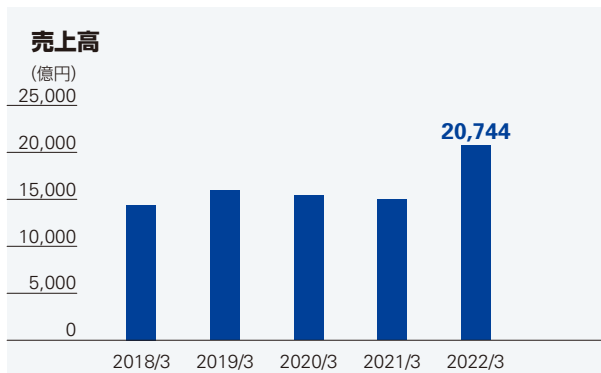
合成性フェロモン、セルロース誘導体、光触媒

**資源効率**

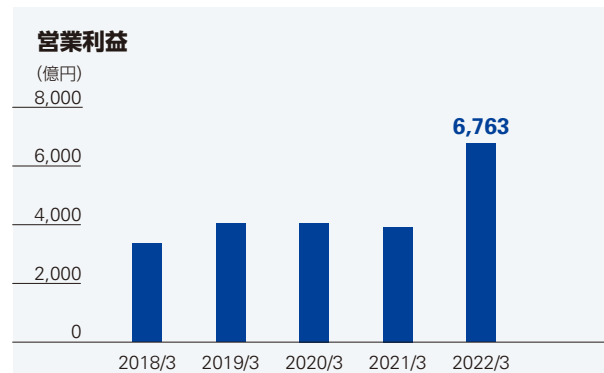
電気自動車  
レア・アースマグネット、リチウムイオン電池用負極材、シリコンなど

省エネ家電、再生可能エネルギー  
レア・アースマグネット、半導体シリコン、シリコン、LED用パッケージ材料など

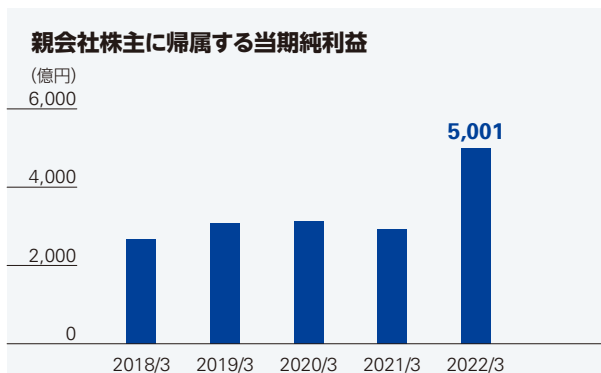
## 財務ハイライト



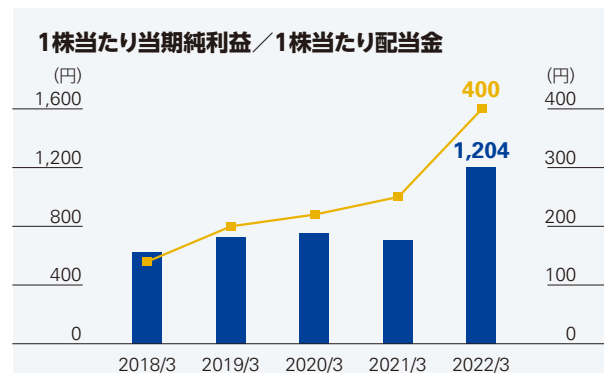
2022年3月期(2021年度)の連結売上高は、塩ビ樹脂を中心とした需要の強さに加え、原料価格を反映した値上げが浸透し、前年度比38.6%増となり、初めて2兆円を超えました。



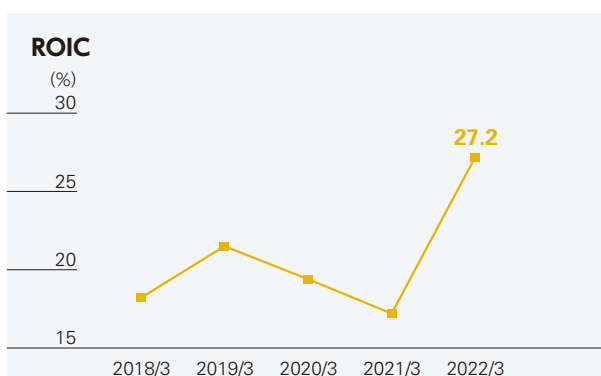
2021年度の連結営業利益は、全事業セグメントで増益を達成、特に生活環境基盤材料事業は前年度比3.2倍と顕著な伸びを示し、前年度比72.4%増と過去最高を更新しました。



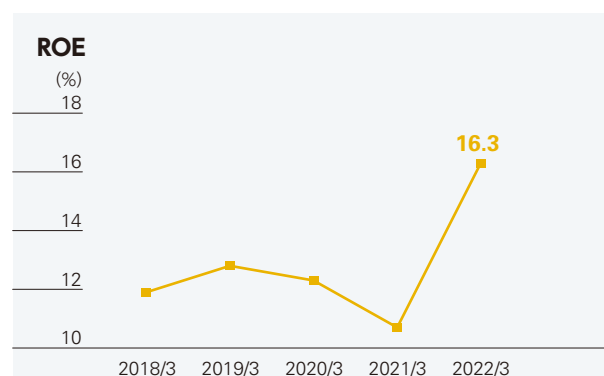
2021年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の大幅増加に加え、持分法による投資利益や為替差益の増加により、前年度比70.3%増と過去最高を更新しました。



2021年度は、過去最高の1株当たり当期純利益に対し、年間配当金は前年度より150円増、7期連続で増配(配当性向33.2%)しました。

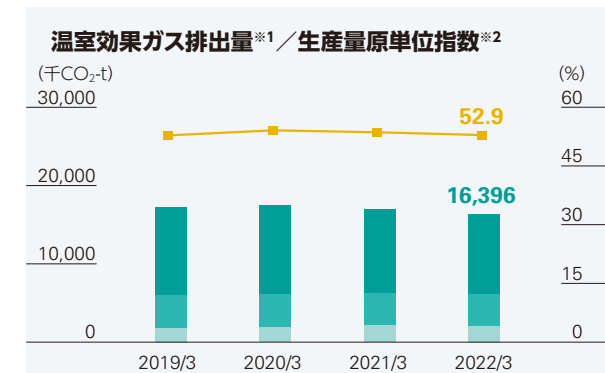


2021年度のROICは、税引後営業利益の大幅増加により、前年度比10.0ポイント上昇しました。



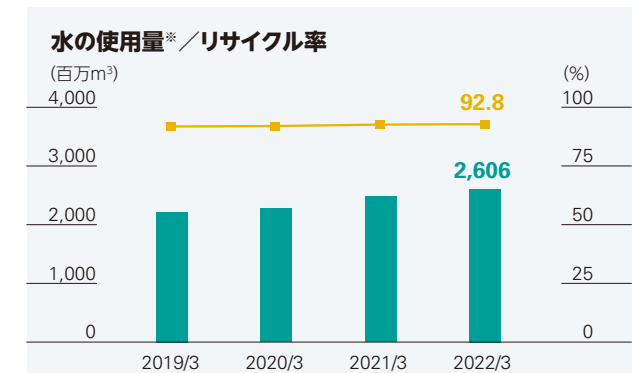
2021年度のROEは、自己資本が前年度比18.3%増加しましたが、親会社株主に帰属する当期純利益の大幅増加により、5.6ポイント上昇しました。

## 非財務ハイライト



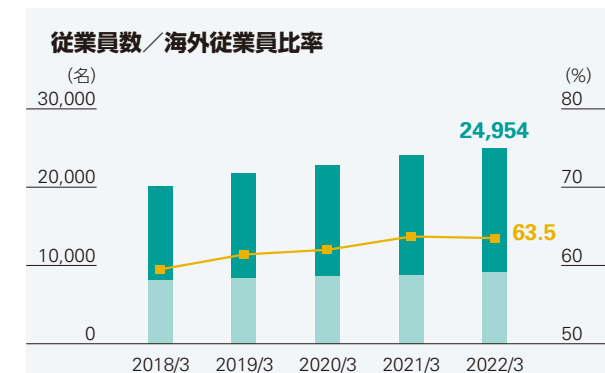
コージェネレーション導入等により、2025年度の温室効果ガス生産量原単位指数を1990年度比で45%に削減する目標の実現を目指しています。

※1 温室効果ガス排出量は排出係数等を見直し、過年度に遡って修正しました。  
※2 生産量原単位指数は、Scope1、Scope2に対する指数。

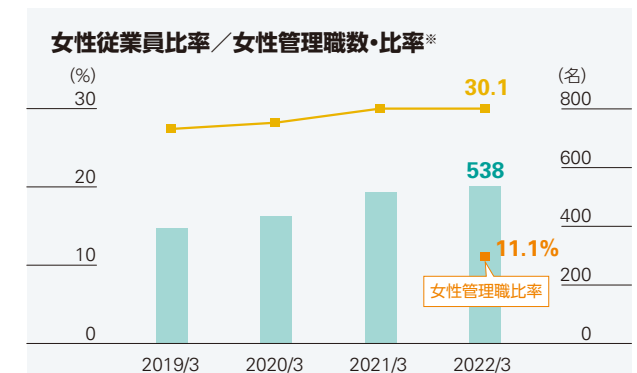


製品の製造には大量の水を必要とするため、「取水量を原単位で平均年率1%削減する」という目標を掲げ、水のリサイクルや雨水の有効活用等を徹底しています。

※取水量と循環水量の合計。

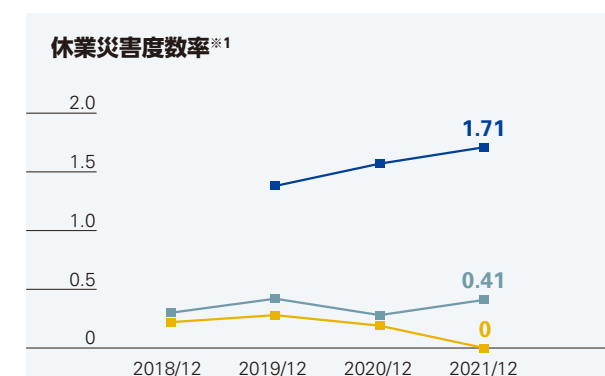


国際労働基準にのっとり、毎年、連結会社に対して人権尊重に関する項目や労務管理、雇用が各国や地域の法令に従って適正に実施されているかを調査し、法令遵守を徹底しています。



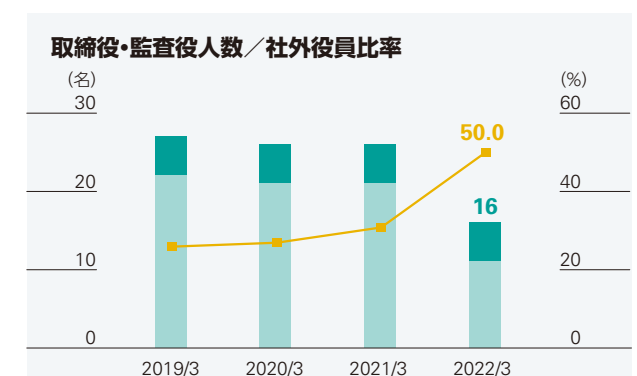
女性の活躍を推進するため、2025年度に「採用時の女性比率を事務系40%、技術系10%とする」、「係長を含む女性の管理職者の数を2014年度比で4倍にする」という目標を掲げています。

※女性管理職比率は、2022年3月期から集計。



2021年も重大事故はありませんでしたが、海外グループ会社で93件の休業災害があり、それぞれの要因解析を行って速やかに対策を講じました。

※1 休業災害度数率は暦年で集計。  
※2 日本化学工業協会(日化協)が集計している日本国内の化学業界の平均値。



2021年度に取締役会を大幅にスリム化するとともに社外役員比率を高め、経営環境の変化に即応できる体制と監視機能の強化を図りました。